

東四つ木地域における 学校適正規模の方向性(案)について

令和5年4月

内容

第1章 検討の経緯について

第2章 東四つ木地域の状況

第3章 取組の方向性(案)について

第1章 検討の経緯について

今後の少子化・人口減少を見据えた学校適正規模の確保に向けて

これまでの経緯

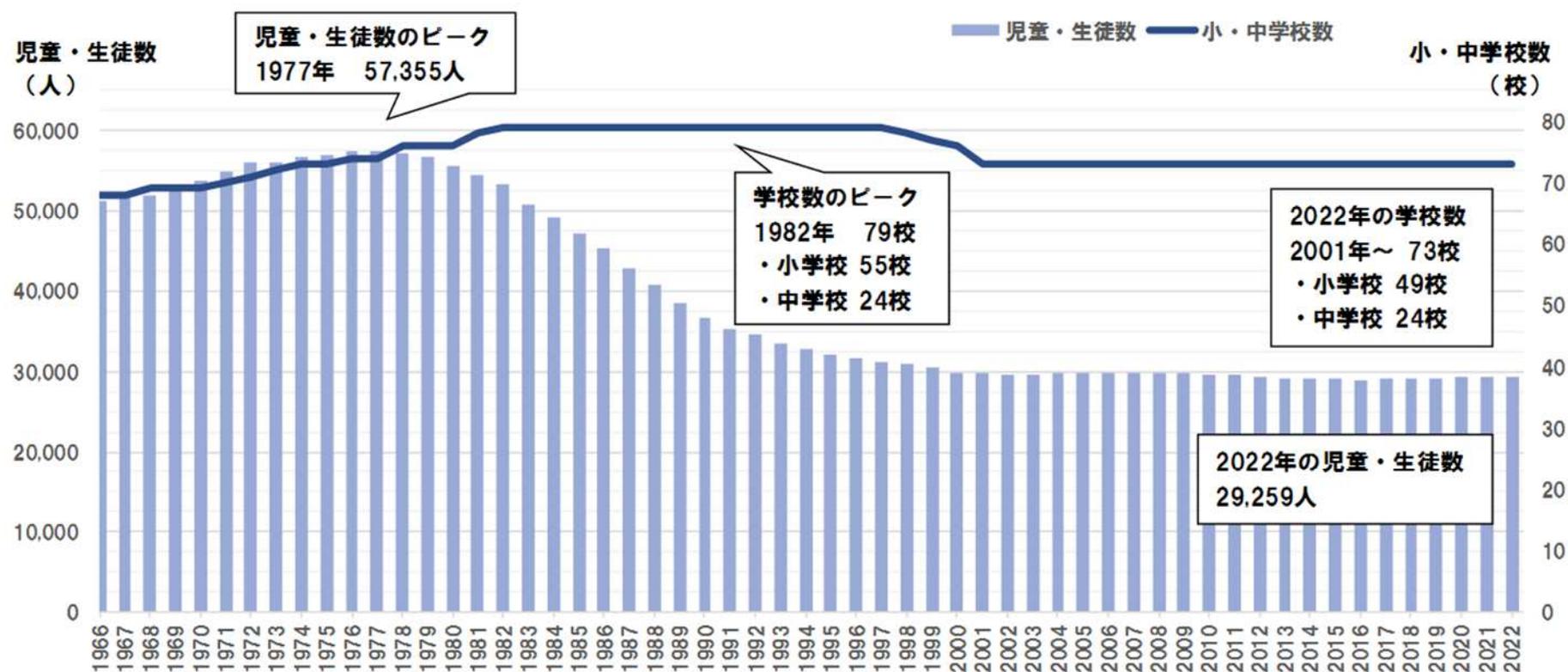
令和4年11月 「葛飾区学校適正規模等に関する方針」を策定

- ①児童・生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けることが重要
- ②少子化による人口減少が見込まれる中、一定の学校規模を確保し、更なる教育環境の充実を図ることを目的として策定

令和5年2月 「葛飾区学校適正規模等に関する方針」地域説明会を実施

- ①木根川小学校、渋江小学校、中川中学校の保護者、近隣にお住まいの皆様に向けた説明会を実施
- ②説明会では、葛飾区学校適正規模等に関する方針、東四つ木地域の小・中学校の現状、今後の予定について説明

「葛飾区学校適正規模等に関する方針」の概要



今後、少子化の進展に伴い、より一層、学校の小規模化が進んでいく可能性があります。

小規模化による課題

(1) 学級編成

- ① 児童・生徒が少ないと、人間関係が固定化し、多様な意見や価値観に触れる機会や、新たに人間関係を構築する力を身に付ける機会が減少
- ② 単学級の場合、クラス替えができず、人間関係に配慮した学級編成ができない

(2) 教育活動

- ① 運動会や文化祭などで、児童・生徒同士が競い合い、切磋琢磨する場面が減少し、十分な教育効果が得られない可能性がある
- ② 教員数が少ないと、チーム・ティーチング、グループ別指導、習熟度別指導、専科指導など、児童・生徒が多様な教育を受ける機会が減少

(3) 教員配置

- ① 1学年に複数の担任がいれば、経験年数、専門性等 バランスのとれた教員配置が可能
- ② 教員配置の充実により、力量ある教員がリードすることで、教員の指導技術をより充実することが可能

学校の適正規模

適正な学級数を確保することにより、経験年数や専門性等バランスの取れた教員配置を行い、学校全体の組織的な対応や、児童・生徒の多面的な評価が可能になります。

⇒将来にわたり安定的に学校運営を行うことができるよう、**学校の適正規模**を定めました。

【小・中学校の適正規模】

	学級数
小学校	1 2 学級（各学年 2 学級）～ 1 8 学級（各学年 3 学級）
中学校	1 2 学級（各学年 4 学級）～ 1 8 学級（各学年 6 学級）

※中学校は、各学年に複数の学級を確保する観点や、人口減少の中にあっても地域にバランス良く学校を配置するため、9学級（各学年3学級）～11学級も許容範囲とします。

学校適正規模を維持していくための取組

- ①学校の適正規模を維持していくために、児童・生徒数の推計を分析し、学校統合や通学区域の見直し等の対応策を検討
- ②検討を行うために、可能な限り保護者や地域住民の意向が反映できるような工夫を講じることが望ましい



地域の方々と、地域全体でより良い学校づくりに向けて考えることができる体制が重要

第2章 東四つ木地域の状況

木根川小学校・渋江小学校・中川中学校の学校規模の現状について

児童・生徒数

- ・令和4年度時点で、木根川小学校は全学年単学級、渋江小学校は一部の学年で単学級
- ・中川中学校は、将来的に単学級が生じる可能性

	木根川小学校		渋江小学校		中川中学校	
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	生徒数
令和4年	6	81	11	288	6	176
令和14年（推計）	6	36	12	234	4	108



東四つ木地域(木根川小学校・渋江小学校・中川中学校)を対象に、学校の適正規模を確保し、学校教育環境の充実に向けた検討を開始

東四つ木地域の学校施設

- ・敷地面積は、中川中学校、木根川小学校、渋江小学校の順に広い
- ・3校とも校舎建築後50年以上が経過

学校名	木根川小学校	渋江小学校	中川中学校
所在地	葛飾区東四つ木一丁目10番1号	葛飾区東四つ木二丁目13番1号	葛飾区東四つ木一丁目3番1号
敷地面積	11,463m ²	7,662m ²	12,040m ²
延べ面積	4,390m ²	5,759m ²	5,709m ²
児童・生徒数	81人	288人	176人
学級数	6学級	11学級	6学級
建築年	昭和42年	昭和42年	昭和46年

※児童・生徒数及び学級数は、令和4年5月1日現在の数値

第3章 取組の方向性(案)について

- ・中川中学校の検討
- ・木根川小学校・渋江小学校の検討

中川中学校の検討

取組の方向性(案)

- ①仮に隣接する本田中学校との学校統合を検討した場合、令和2年に竣工した本田中学校の校舎規模では、生徒の受入れが困難となることが懸念される。
- ②今後、京成立石駅周辺における人口増加が見込まれることから、立石・東立石・東四つ木エリアの通学区域の再編が求められる。



中川中学校は、再開発事業の進捗に合わせて、

今後、通学区域の見直しを検討することにより適正規模を確保

木根川小学校・渋江小学校の検討

- ・木根川小学校と渋江小学校の児童数を合わせると適正規模(12学級)を確保することが可能

学級数・児童数（令和4年5月1日時点）

	合 計		1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年	
	学級数	児童数												
①木根川小学校	6	81	1	8	1	10	1	15	1	18	1	11	1	19
②渋江小学校	11	288	2	52	2	46	2	54	1	34	2	46	2	56
③統合後【①+②】	12	369	2	60	2	56	2	69	2	52	2	57	2	75

※学級数は現行制度（1～3年は35人学級、4～6年は40人学級）で算出している。

木根川小学校・渋江小学校の検討

取組の方向性(案)

- ①通学区域の見直しにより適正規模を確保することは困難
- ②両校の統合により適正規模を確保することが可能
- ③学校統合した場合も児童への通学面における影響が少ない



木根川小学校と渋江小学校は、学校統合により適正規模を確保

学校施設の改築検討(案)

- ①木根川小学校と渋江小学校は、学校統合する方向で検討
- ②中川中学校は、再開発事業の進捗に合わせて通学区域の見直しを検討



小学校の学校統合を契機に、統合した小学校と中川中学校の施設一体型校舎として整備する方向で検討を進めます。

施設一体型校舎について

小中連携教育の推進

より小中連携教育を行いやすい環境を整備することで、学力向上や健全育成などに連続性を保ちながら取り組み、中学校への円滑な接続を行うことができます。

地域に根差した学校づくり

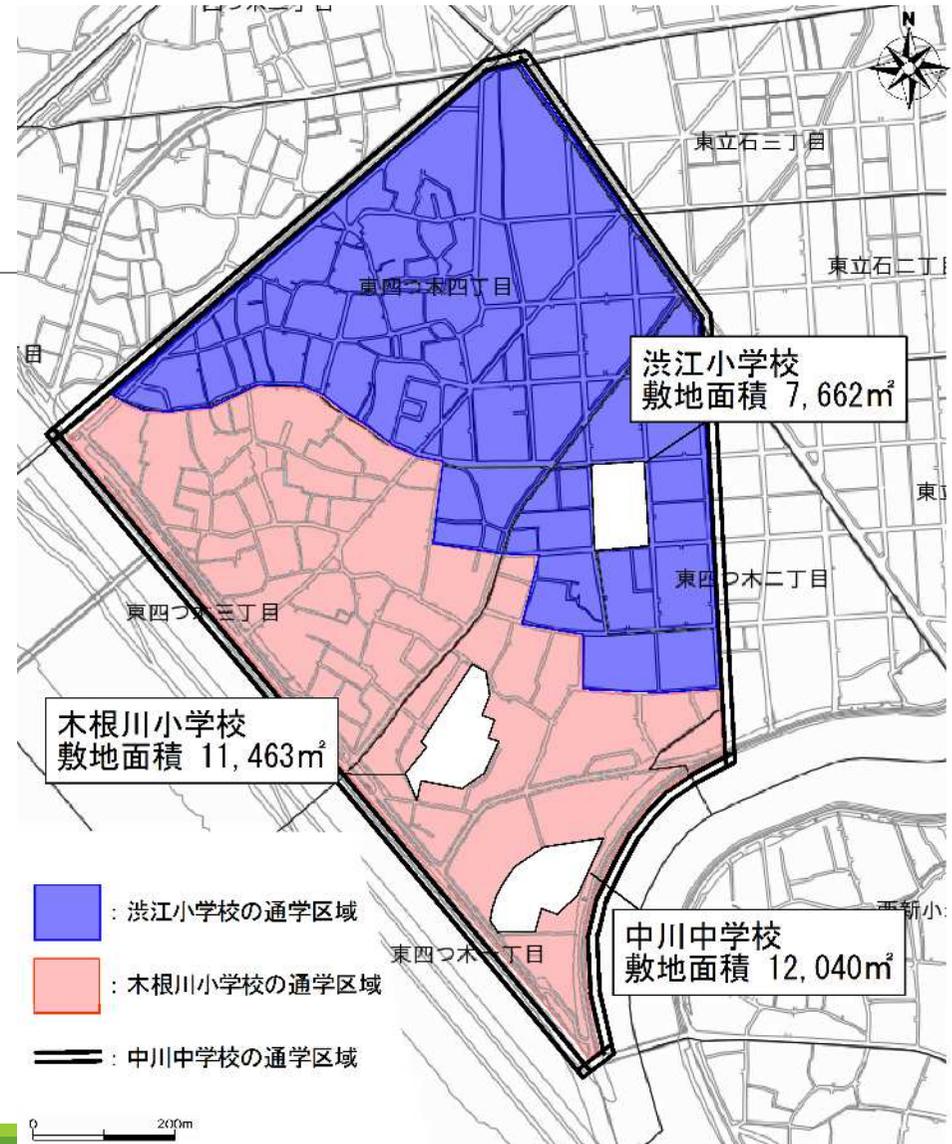
東四つ木地域の子どもたちに良好な教育環境を提供するとともに、通い慣れた学校に通学することで中1ギャップの解消を図ることができます。

施設一体型校舎の 所在地(案)

【3校を比較した場合】

- ①東四つ木地域の比較的中央部に位置
- ②一定の敷地面積を確保

木根川小学校の敷地を
第一候補地として検討

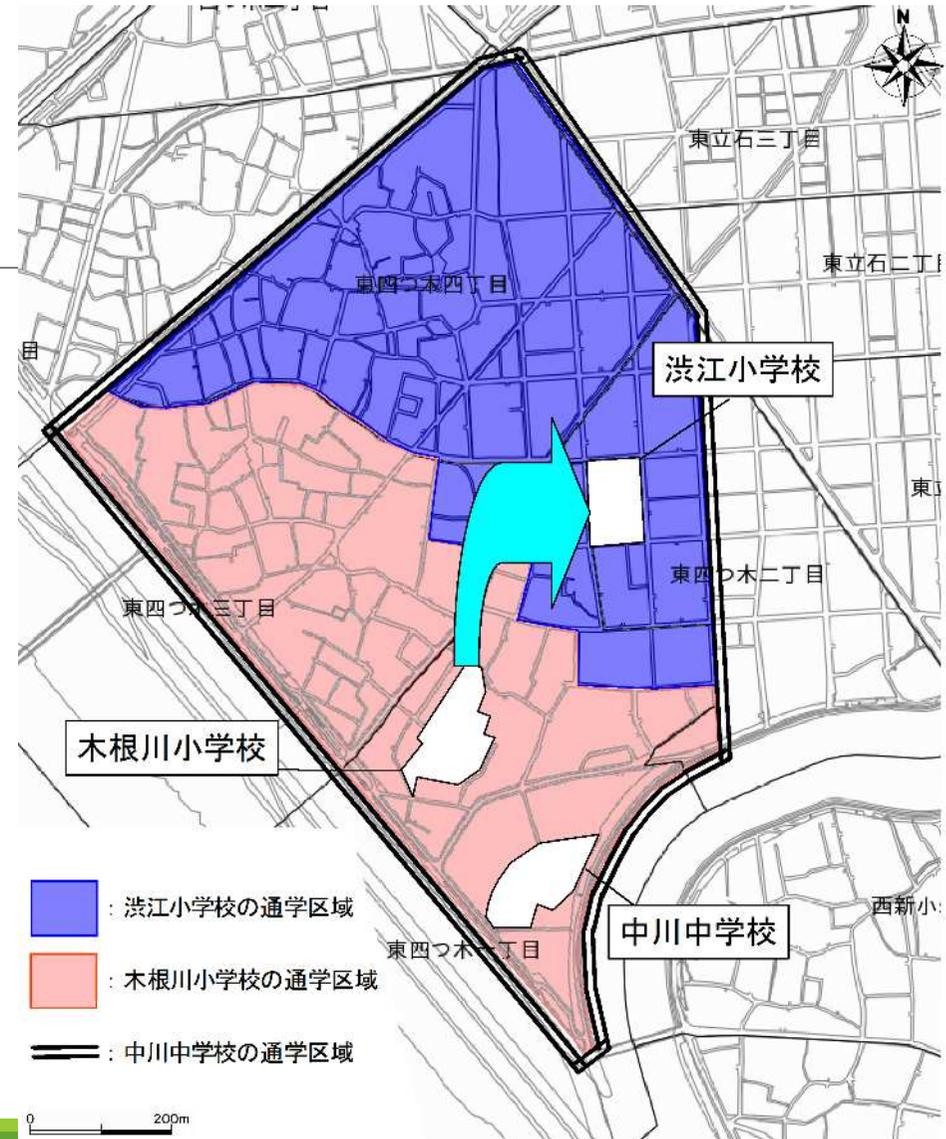


学校改築の進め方(案)

既存校舎では3校の施設一体型校舎として、児童・生徒の受入れは困難であることから、今後、学校改築について検討を行う。

①既存校舎で小学校を統合

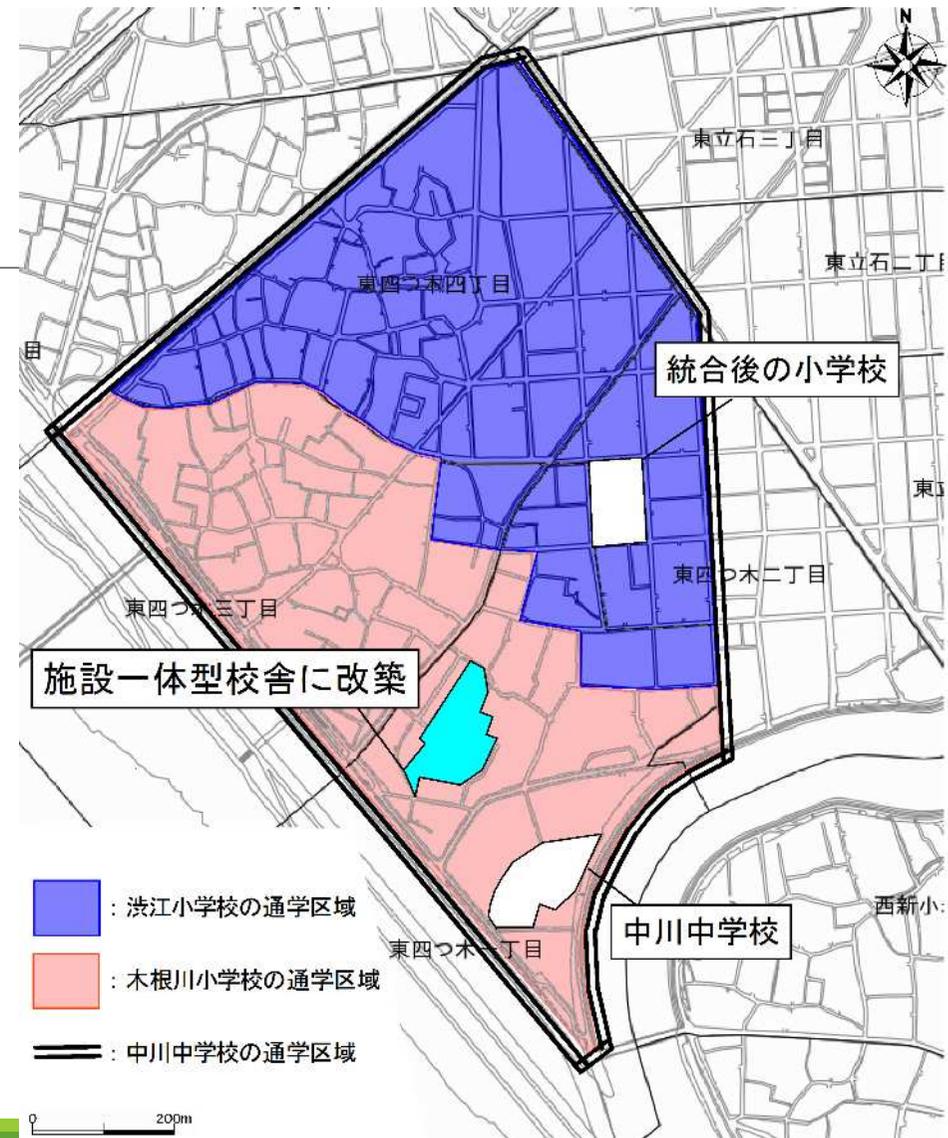
既存の渋江小学校校舎で、
木根川小学校と渋江小学校を統合



学校改築の進め方(案)

②空校舎を改築

空校舎となる木根川小学校校舎を
施設一体型校舎として改築

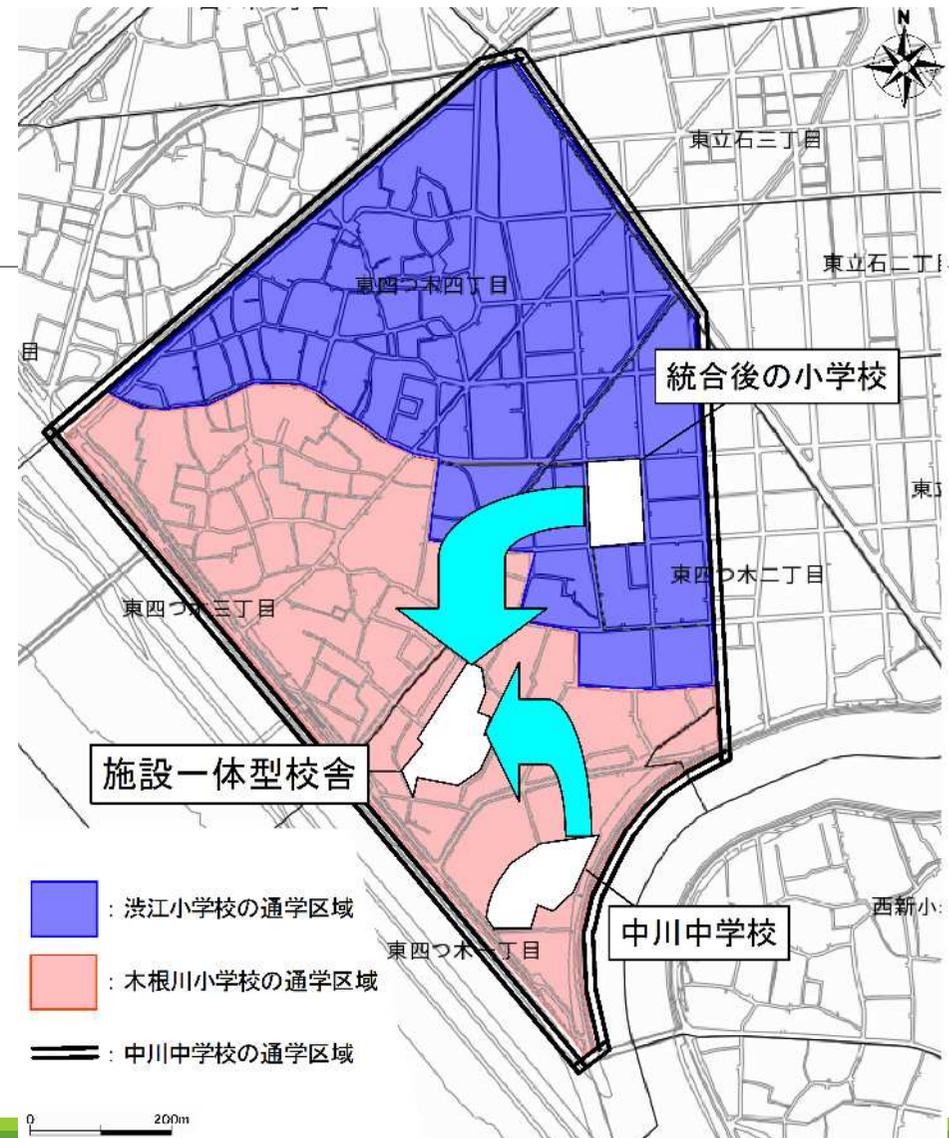


学校改築の進め方(案)

③新校舎へ移転

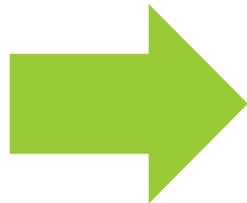
施設一体型校舎の竣工後、
小学校・中学校とも移転

東四つ木地域全体の教育環境を向上



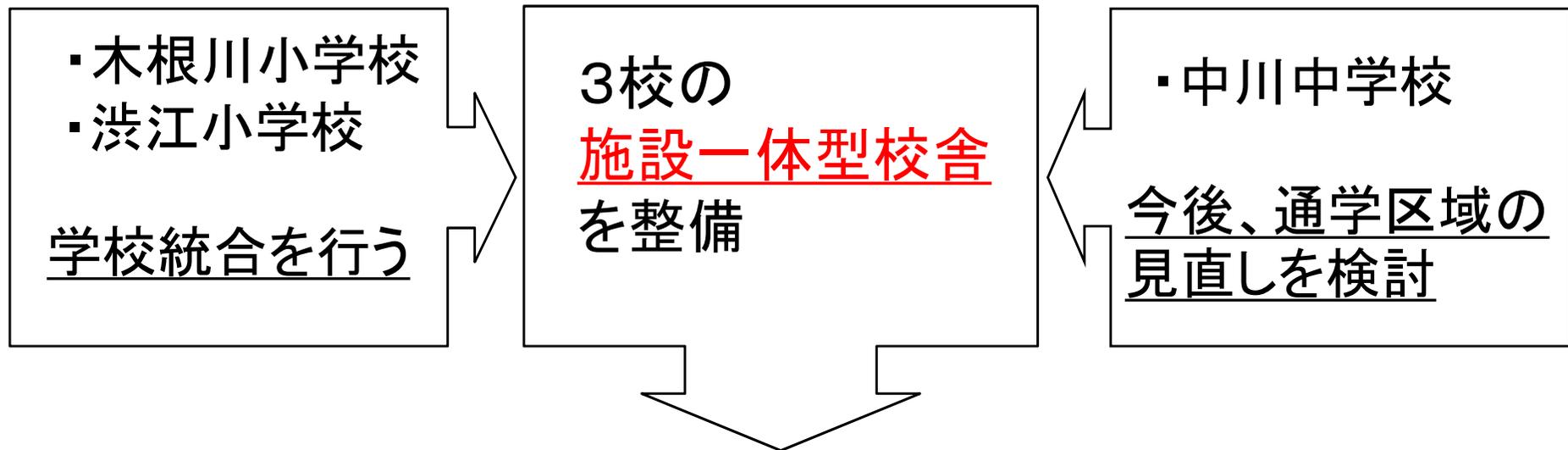
検討の進め方

木根川小学校、渋江小学校、中川中学校の学校評議員などの学校関係者・地域代表者(町会長、青少年委員、民生委員児童委員、PTA会長、同窓会長など)から組織する検討懇談会を設置



今後、検討懇談会で地域の方々のご意見を伺いながら、
本案を含めた学校適正規模に向けた取組の検討を進めていきます。

取組の方向性(案)のまとめ



今後、検討懇談会において取組の検討を進めるとともに、
保護者や地域の皆さまへ検討の経過をお知らせ

アンケート

説明会や本案へのご意見・ご要望などございましたら、
Web入力フォームからご記入ください。

携帯電話・スマートフォンでQRコードを読み取ると、
入力フォームにアクセスできます。



葛飾区教育委員会事務局 学校環境整備担当課

〒124-8555 葛飾区立石5-13-1

電話 03-5654-6129 / FAX 03-5698-1540